

1 学校として目指す授業

対話的、主体的な深い学びの実現（主体的な生徒の学び、教師の学びの充実）を目指し、「教える授業」から「考える授業」へ。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校3年生）

| 学力・学習状況調査の分析  | 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析   |
|---|---|
| 国語では古典における歴史的仮名遣いを読めないなど、領域によっては未学習の部分があると思われる。数学では図形について基本的な事項が定着していない生徒が多い。全体的にみて、記述式の問題での正答率が低いのだが、そもそも回答しない生徒が多く、自分の考えをもとに、筋道を立てて文章を書いていく習慣をつける授業の工夫が必要である。 | 食事や就寝、起床時間はおおむね良好であると思われる。家庭学習時間や読書時間に不足が認められる。家庭にある図書の量が少なく、図書館等の利用が少ないためと思われる。塾等での学習時間に差異は感じられないが、普段の授業の復習や予習にかける家庭での学習時間の確保が必要である。 |

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

学習に対する意識や取り組み意欲に関して課題が多いことがわかる。特に家庭学習や反復練習に対して実践が不足していると思われる。そのため、思うように定着が図れず、生徒自身の学習意欲が高まっていかないという循環が予想される。また、教科の学習に興味を持っていても、理解に至るまでの過程を大事にできない面もあがる。すぐに結果を求めてしまい、それが思うようにいかない関心が薄れてしまう傾向があるかもしれない。全体として、学習に向き合う気持ちが育ちきっていないと考える。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

「漢字を読む」ことはできても「漢字を書く」力が弱いのは今の時代の子供たちの典型であると感じる。また、「文章を書く」ことが苦手な生徒が多い。朝読書の時間を通して、正しい文章に触れることと、日常の場面で漢字を使わせることを意識させたい。その上で「文章の読み取り」等の「考える授業」を展開できると考える。数学では、「正の数・負の数」「文字式」「一次方程式」という、計算の基礎が定着していない生徒が多い。また、「一次関数」のような、事象を多角的にとらえることが必要分野を苦手とする生徒が多く、「考える授業」の充実を図りたいと考える。

(3) その他の資料を活用した分析

| 活用した資料名及び分析結果  |
|--|
| 新体力テストの結果を活用し体力の向上に向けて取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質、能力を育てていく。 |

3 生徒の学力・学習状況等の課題

全体として基礎学力の定着不足が課題である。その大きな要因として、学習習慣の確立や家庭学習の習慣化が十分ではない点が課題としてあげられる。授業以外での自主的な学習が習慣化していないために、学習の成果がつかえず、基礎的な学力も定着しにくい状況になっていると考えられる。その結果、発展的な内容にも対応が難しくなり、教科そのものに興味を失ってしまうという流れが懸念される。基礎学力を定着させるために、興味・関心を持続させ、授業以外の場面でも自主的・主体的な学習に取り組ませることで、学習状況の改善だけでなく学力向上にもつながっていくと考える。

4 学校全体の授業改善の視点

- ①毎時間の授業は「本時のねらい」の明示とまとめでの「振り返り」を実施する。
- ②課題解決型の授業など、常に「考えさせる」授業を実践し、生徒に「一人で考えさせる」時間を確保して、思考力・判断力・表現力を身につけさせていく。
- ③表現活動を重視し、ペア学習、グループ学習等、協働授業を実践する。

**【授業改善推進プランの活用法】**

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → [教育指導課へ提出する。](#)
- ⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

|             | 国語  | 評価 | 社会  | 評価 | 数学   | 評価 | 理科   | 評価 | 音楽  | 評価 | 美術  | 評価 | 保健体育  | 評価 | 技術・家庭   | 評価 | 外国語   | 評価 | 道徳  | 評価 |
|-------------|---|----|---|----|--|----|--|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1<br>学<br>年 | ひらがなを含めて字を正しく書くことができないう生徒が多いので、繰り返し練習させ、基礎基本からしっかりと身につけさせる。一人ですりくりと考えることが苦手な生徒も多いので、課題を設定し、ペア、グループ等で考えさせる授業を増やしていく。   |    | 思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それを用いて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるように工夫し指導していく。 |    | 習熟度合った授業展開を試みて行く。基礎・標準・発展それぞれ授業の目標を明確にし、振り返りを行いながら進めていく。また、反復練習をしながら、小テスト・定期テストなどを目標に生徒に自信をつけさせ、家庭学習の習慣の定着と学習意欲を高めていきたい。 |    | 小学校で前向きに取り組んでいた流れで、全体的な雰囲気はよく、発言も多い。導入の段階で思考させる機会をふやし、授業での目的意識を高めることを進めていく。また、実験を実施する際、必要な道具、操作を考えた時間をとり、主体的に参加して学習内容の理解を深める。                  |    | 音楽の基礎的な知識を身に付けさせるため、表現と鑑賞の活動を通して、共通事項を取り上げて繰り返し指導していく。そして、それを生かして表現を工夫する活動を行い、実感を伴った理解を深める。                 |    | 1時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。発問力を高めるために、クローキーボードを活用して、アイデアスケッチを工夫させる。鑑賞タイムを設け、言語活動を取り入れることで、言葉で表す力も高めたい。 |    | 1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確に示し、見通しを持った学習を工夫していく。また、仲間と支えあって活動する経験を増やし、苦手なものにも取り組める力を養わせていく。さらに、段階的な指導を通して、確実な知識・技能の習得を目指していく。                                       |    | 1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。基礎的・基本的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。食品の選択や調理のしかたと資源や環境のかかわりや地域の食文化など、身近なものから興味を持たせ、理解させるとともに、授業の取り組みも高めたい。 |    | 単元ごとに技能領域を絞り込み、指導目標・言語活動・評価の整合性が図られた授業を行う。特に、話すことの「やり取り」では、ペア活動を多く取り入れ、目的・場面・状況を明確にした上で、思考・判断・表現させる取組を増やしていきたい。 |    | 年間指導計画に沿って題材を選択し、意見交換を通して考えをより深めたい。道徳の時間を使って、判断力の成長につなげていく。そのために、普段の行動で振り返ることができよう学習活動を意識させる。また、ローテーション授業やICT活用も実践していく。 |    |
| 2<br>学<br>年 | 基本的な漢字・語句の意味等、国語常識が不足している生徒が多い。じっくり文章を読みつつ、基本知識の徹底を図りたい。また、自分で考え、それを言葉にする、書くというのを苦手とする生徒も多い。個人ワーク、グループワーク等、アクティビに自分の考えを提示する機会を増やし、考えて言葉にする力を養いたい。                     |    | 思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それを用いて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるように工夫し指導していく。 |    | 習熟度別少人数授業の利点を生かし、授業ごとに設定したスモールステップでの目標達成を積み重ねることによって、各クラスごとに設定した大きな目標達成を目指す。計算コンテストなどを通して達成感を味わうことで、自信を介させ意欲を高める。        |    | 授業で基本的な計算力や、問題を読み取る力をつけることは困難である。放課後等を利用し、個々に対応した学習教室を開くなどしないうと解決できないと考える。また、学校では対応困難な観察・実験についてはICTの活用を進めていく。                                  |    | 音楽から聴き取ったことや感じ取ったことを自分なりに言葉で表す活動を実践する。曲想を表す言葉提示する他に、ペアやグループ活動を行う中で、友達との言語表現に触れ、自己の表現を豊かにしていくことができるよう        |    | 取り組んだことがすぐ結果として見える課題を用意し、段階的に技能が身に付いていくように工夫をする。完成までの道のりの全体像をつかませながら、途中の段階の小さな目標を設定し、支援をする。                       |    | 1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。基礎的・基本的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。食品の選択や調理のしかたと資源や環境のかかわりや地域の食文化など、身近なものから興味を持たせ、理解させるとともに、授業の取り組みも高めたい。 |    | 生徒自らがどのような力を身に付けていけばよいかを考え、自らその力の獲得に向けた授業内での取り組み方を工夫できるような課題を設定していく。また、身に惹かれた知識・技能をどのような場面で生かすことができるかを例示も交えながら提示し、より単元のねらいに沿った活動ができるように指導する。                        |    | 単元ごとにどのような力をつけていきたいかを明確にし、練習量を確保しながら、学び方を提示する。自分で考え、それを分かち合う時間を設け、自己表現の場をさらに増やしていく。                             |    | 年間指導計画に沿って題材を選択し、班で意見交換を行い、自己理解・他者理解を深めていく。振り返りを丁寧に行い、今後も多面的・多角的に考えられるような場を多く設けていきたい。                                   |    |
| 3<br>学<br>年 | いまだ基本的な漢字・語句の意味等、国語常識が不足している生徒が多い。文章を読みつつ、漢字テストなどの指導を通して、基本知識の徹底を図りたい。また自分で考え、それを言葉にすることを、苦手意識は少なくなった。ただし、まだ言葉に丁寧に表現し、相手に伝わる意識が乏しい。引き続き個人ワーク、グループワーク等を通して思考力表現力を高めたい。 |    | 感想、読み取り、思考等色々な場面での短い文章を書かせる場面を増やし、時間の許す限り文章作成のトレーニングを行う。また、時事問題の提示をして、それについて考えさせ、文章にまとめる作業などを指導していく。      |    | 関数や図形単元ではデジタル教科書を活用し、視覚的に理解できるようにしていく。また習熟度別少人数授業での利点を活かし、授業中にできる限り個別支援を行っていく。テスト前の質問教室や長期休業中の補習を充実させる。                  |    | 実験・観察結果から考察を導くことが困難な生徒に対して、言語活動を増やしたり、話し合いながら考えをまとめる活動を取り入れる。これは、国語力でも必要であり、小学校からの積み重ねが不可欠である。主体的に授業に参加することは、評価だけでなく、日頃の成果につながるという実感を持たせることが大切 |    | 鑑賞では、多様な音楽表現や音楽文化に触れ、作曲者の意図や作品の背景を読み取る活動を行う。表現の活動では、自分の意図をもって表現の工夫をしたり、生徒主体の音楽活動の場を設定したりし、自分たちで音楽表現を高める経験を積 |    | 構想するとき、様々な角度からイメージを膨らませてから表現できるように、生徒同士の意見交換の場を設けたりしながら、言葉によるイメージの具現化から制作に入る活動を増やす。また、制作後の鑑賞活動も充実させる。             |    | 高校への接続や生涯にわたってスポーツに親しむ力を養わせていくために、生徒が自主的に教えあったり、支えあったりすることができるような活動の場を工夫していく。また、より発展的な知識・技能の獲得を目指す。課題に応じた活動の場を設定したり、工夫したりしていく。                                      |    | 課題を明示して、計画的に作品作りを取り組めるような授業を展開する。情報処理関係の授業を充実させ、ネット社会でのモラルの大切さを理解させる。自分の生活や家族について、課題を見つけ工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件を学ばせる。「子供のおもちゃ」の構想、制作を                                |    | 単元ごとに目標を設定し、生徒自らが見通しと目的意識を持って言語活動を行い、必要な表現を習得しているようにする。また、パフォーマンステストの評価基準を明確にし、各々が学びを実感できるようにする。                |    | 年間指導計画に沿って題材を選択し、ペア・班で意見交換を行い、また赤ちゃんプロジェクトなどの体験を通して、自己理解・他者理解を深めていく。振り返りを丁寧に行い、多面的・多角的に考え、社会と自己の関わりを深めるような場を設け          |    |